

平成27年11月 2日
千葉大学

南房総に栄えた豊かな木の文化の歴史を紹介します

— 平成27年度 千葉大学公開市民講座

「安房を彫る—木を生かす人びとの営み—」を開催します（開催日12/6）—

千葉大学では、南房総に栄えた豊かな木の文化の歴史を紹介する公開市民講座を開催します。

すでに平安時代前期9世紀に優れた仏像がつくられ、また18世紀に「波の伊八」と呼び慣わされた武志伊八郎信由が、そして19世紀に後藤義光が生まれた南房総の安房の地は、多くの素晴らしい木の造形で知られています。千葉大学大学院工学研究科はこれら木彫作品を対象に3D画像など工学的な分析を用いながら、かたちと技法の実際を明らかにしようと試みています。

本公開市民講座では、南房総を中心とする木彫文化の第一線の研究者に歴史的そして社会的な背景をお話していただき、あわせて千葉大学大学院工学研究科が手がけた3D画像など研究成果の紹介によって、豊かな木の文化の歴史を学びます。

なお、当日は3D形状測定を会場で実施する予定です。

1. 日時 平成27年12月6日（日）13時～16時40分（12時30分開場）
2. 場所 千葉大学工学系総合研究棟2 二階コンファレンスルーム
住所：千葉市稲毛区弥生町1-33

〔参考資料〕

- 1) 「安房を彫る—木を生かす人びとの営み—」チラシ

本件に関するお問い合わせ先

千葉大学高等教育研究機構高大連携・地域貢献部門

地域貢献専門部会長 上村 清雄（文学部 教授）

Tel：043-290-3643

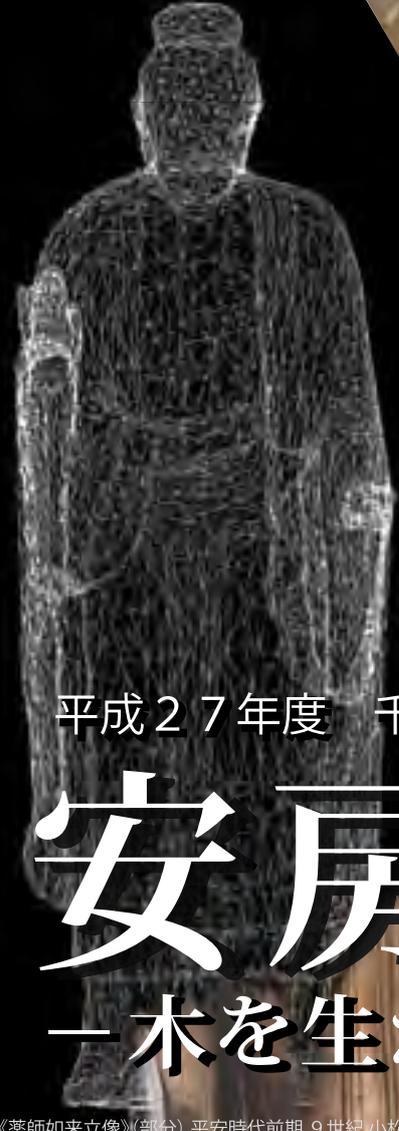
E-mail：uemurak@chiba-u.jp

千葉大学学務部教育企画課総務係 水野 聖人

Tel：043-290-2154 Fax：043-290-3606

E-mail：dag2154@office.chiba-u.jp

《七人狸々》(部分) 武志伊八郎信由(初代伊八) 江戸時代 安永8(1779)年頃 金栗院大日如来堂欄間(鴨川市打墨)



平成27年度 千葉大学公開市民講座

安房を彫る

—木を生かす人びとの営み—

《薬師如来立像》(部分) 平安時代前期 9世紀 小松寺(南房総市千倉町) / 3D画像

《五体の龍に宝珠》(部分) 後藤利兵衛桶義光(初代義光) 明治24(1891)年 浜下屋台(南房総市高崎区)

入場
無料

工学系総合研究棟2
コンファレンスルーム

お車でのご来場は
ご遠慮ください



千葉大 公開市民講座

<開催日時>

平成27年12月6日(日)
13:00~16:40(12:30開場)

- 講演1
南総で活躍した二人の彫工・伊八と義光
石川丈夫 鴨川市郷土資料館 文化振興室長
-
- 講演2
安房の木彫仏とその造形
池田英真 館山市商工観光課 主任学芸員
-
- 講演3
安房の木彫の造形を3D形状測定によって分析する
久保光徳 千葉大学大学院工学研究科 教授

パネルディスカッション
安房を彫る —木を生かす人々の営み—
稲垣祥三 寺社彫刻研究者・彫刻家、石川丈夫、池田英真、久保光徳
司会：植田憲 千葉大学大学院工学研究科 教授

<開催場所>

千葉大学 西千葉キャンパス
千葉市稲毛区弥生町1番33号
工学系総合研究棟2 コンファレンスルーム

<企画> 千葉大学 高等教育研究機構 高大連携・地域貢献部門 地域貢献部会
<主催> 千葉大学
<後援> 鴨川市、鴨川市教育委員会、館山市、館山市教育委員会、
千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、千葉日报社 (50音順)
<チラシ・ポスター制作> 千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻 デザイン文化計画研究室



安房を彫る

一木を生かす人びとの営み

仏像をはじめとする素材を生かした木の造形は作り手の見事な技術を今に伝え私たちに魅了してやみません。「波の伊八」と呼び慣わされている武志伊八郎信由(1752～1825)、今年生誕二百年が祝われた後藤義光(1815～1902)が生まれた安房の地には多くの素晴らしい木の造形がうまれています。千葉大学大学院工学研究科はこれら木彫作品を対象に3D画像など工学的な分析を駆使しながら、かたちと技法の実際を解明しようと試みています。これら「科学の目」によって神秘的とも思える木彫作品の豊かな造形世界の魅力をあらためて学ぶことができるのではないのでしょうか。

本講座では、安房を中心とする木彫文化研究の第一人者をお招きし歴史的そして社会的な背景を中心に話をさせていただきます。さらに本学工学研究科教員による3D画像など科学的な分析の報告とあわせて、伝統に支えられた木の営みの秘密を「発見」する貴重な機会としたいと思えます。

○講演1

南総で活躍した二人の彫工・伊八と義光

石川 丈夫 鴨川市郷土資料館 文化振興室長

同じ安房の地に生まれ育った二人の彫工、武志伊八郎信由(初代伊八)と後藤利兵衛橋義光(初代義光)。祖父と孫ほどの年齢差がある彼らは、安房の国を拠点として数多くの作を残している点では共通しています。しかし、二人の仕事を比較すれば、共通点よりも相違点の方が多く認められることも事実です。同じ職種で生計を立てた伊八と義光、それぞれの事蹟の特質は相互の比較をとおして、より一層鮮明に浮き彫りにされます。伊八と義光、二人の本質的な違いは何に起因するのか。二人の彫工の際だった対照性を明らかにし、検証することによって、江戸/東京からみれば辺境(換言すればフロンティア)に位置する南総の地域文化がはらむ多様性や寛容性の一端を探ります。

○講演3

安房の木彫の造形を 3D形状測定によって分析する

久保 光徳 千葉大学大学院工学研究科 教授

安房を代表する木彫数点を対象に実施した3D形状測定の結果をご紹介します。日常とは異なる視点から木彫を観察する試みです。小松寺本尊薬師如来立像の形態をはじめとして造形分析をおこない、伊八作と義光作の両形態に確認できる共通点とそれぞれの相違点を観察したいと考えています。この試みはいまだ萌芽的な段階であり、学問的に体系化された結論をお示しすることはできないとはいえ、それぞれの形態に見られる幾何学的な構成、自然界の形態が示す自己相似性などの特徴を示唆できればと考えています。さらに、この形態観察を通して、今に残された木彫造形を生み出した人々のからだの動き、そして、こころの動きまでも思いが至ればと期待しています。当日講座会場において、3D形状測定を実施する予定です。



入場無料 定員 150名

○講演2

安房の木彫仏とその造形

池田 英真 館山市商工観光課 主任学芸員

千葉市美術館で開催された「仏像半島」展で紹介されたとおり、房総半島には多くの優れた仏像彫刻が遺されています。房総半島南部に位置する安房地域も例外ではなく、平安時代に遡る作例も珍しくありません。仏像彫刻の中でも、木彫仏は時代とともに用材、技法を変化させながら発展しました。もちろん信仰とも無関係ではなく、なぜそのような仏像が造られたかを考えることは、地域の歴史を明らかにするうえで大変重要です。たとえば、県下最古の木彫仏である小松寺(南房総市千倉町)の秘仏本尊薬師如来立像は、房総半島の木彫仏の成立を考えるうえで大変貴重な存在ですし、「覆面観音」と呼ばれている真野寺(南房総市久保)の本尊千手観音菩薩立像は顔に菩薩面をつける珍しい作例です。安房地域の特徴的な木彫仏を紹介しながら、その特性と多様性について考えます。

●申込方法

「安房を彫る受講希望」を記し、①氏名(ふりがな)②電話番号③住所またはメールアドレスをご記入の上、以下の申込先にお送りください。本チラシの参加申込書をご利用いただいてもけっこうです。また、QRコードから申請フォームを読み取り、入力することもできます。

お申込みの際にいただいた個人情報は、本公開市民講座以外には使用いたしません。

●申込先

<郵送の場合>

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
千葉大学 学務部教育企画課 宛

<FAXの場合>

学務部教育企画課 / 043-290-3606

<電子メールの場合>

koukai-kouza@chiba-u.jp

千葉大 公開市民講座

検索

●受付期間

平成27年10月26日(月)～11月27日(金)

※定員を超えた場合、お断りすることがあります。

▼参加申込書▼

平成27年度 千葉大学公開市民講座	安房を彫る 一木を生かす人びとの営み	平成27年 12月6日(日)
ふりがな		
①氏名		②電話番号
③住所	〒	
	メールアドレス	